

学校教育目標	やさしく かしく たくましく ～知・徳・体の調和のとれた児童の育成～	経営理念	○ミッション:確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく、主体的に取り組む児童の育成 ○ビジョン:「学んでよかった」「来させてよかった」と信頼され期待される学校づくり ・児童が学びたくなる学校 ・教職員が誇りややりがいをもてる学校 ・保護者や地域が通わせたい学校
--------	---------------------------------------	------	--

評価計画				自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方針			
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							11月	3月						
確かな学力	1	確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的にとらえた授業づくり	○ICT機器を積極的に活用した授業の実施	・教職員の意識調査 【ICT機器を取り入れた授業を行った」と回答した教職員】	90%以上	100.0%		111.1%	4	市教委主催の研修やオンライン講座に積極的に参加するとともに、各行事において効果的な活用方法を随時試行したことにより職員 の意識は高いといえる。	B	○教師の授業準備はしっかりと行われているが、児童との授業におけるコミュニケーション力を向上させたい。	・児童の実態・教職員の実態に基づいた研修の充実。 ・正答率40%未満の児童に対する個別の指導の充実。 ・教員の専門性を活かせる指導体制の整備。 【一部新規】
				○児童の協働解決場面を効果的に設けた授業推進	・児童意識調査 【「友達と協力して分かる・できるようになった」と回答した児童90%以上】	90%以上	90.2%		100.2%	3	協働解決場面を意図的に位置付けることにより、児童の意識調査では目標値を達成できたが、効果的な協働解決実現かについては研究を進める必要がある。	B	○児童の協働を進めるのであれば、児童の声を含め発言力を向上させる取組が必要である。	
			○確かな学力の向上	○家庭学習強化月間の実施	・家庭学習の提出率 【2週間連続100%の学級】	100%	38.0%		38.0%	1	学級間格差が大きい。指導の徹底、家庭への働きかけについて、学校全体(学年部全体)で共通理解を図る必要がある。	B	○日々の授業で児童の学力を高めることが重要であり、授業改善について日々精進することが大切である。そのためには、学習内容だけでなく学習方法(学び方)についても一層の指導が必要であり、掲示等による日常的な働きかけを工夫することが求められる。	
				○寺西「教えるスタイル」「学びのスタイル」の見直しと定着	・標準学力調査 【正答率40%未満】	10%以下	国語 9.1% 算数 9.1%		110.0%	4	個別の働きかけを進めたことで一定の成果が見られた。反面で生活行動面と学習面の相関があり、生徒指導の取組みを合わせて行う必要がある。	B		
			○学力テスト、単元テスト実施による目標の明確化と学力定着状況の把握	・国語・算数単元テスト平均 【正答率60%未満】	10%以下	国語 5.2% 算数 6.9%		165.3%	4	単元末に定着状況を確認し、手立てを行うことで目標値を達成できた。日々の授業により着実に学力を定着できるよう努める。	B			
豊かな心	2	自他を尊重し規範意識の高い心情や態度を育む	○寺西「5つの宝」を高いレベルで実行する児童の育成	○「時を守り、場を清め、礼を正す」を定着させる。	・児童会によるアンケート 【「今月のめあて」に対する取組(5つの宝に準ずる)を達成した学級】	70%以上	50.0%		71.4%	2	学級間格差が大きい。指導の徹底、家庭への働きかけについて、学校全体(学年部全体)で共通理解を図る必要がある。	B	○挨拶については、ここ何年間かの課題である。教員の前ではあいさつをするが地域住民や保護者への挨拶が進まない傾向もみられる。学校・地域・保護者の一体的な取組が必要である。	・「挨拶」を中心的取組に据えた地域・学校・保護者の協働的取組の充実 【継続】
			○学校へ行くのが楽しいと思える児童の育成	○全教職員が児童の良さを認め、児童の自己肯定感を高める取組を行う。 ○「ありがとう」「ごめんなさい」を大切にす。	・児童アンケート 【「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童】	80%以上	87.1%		108.9%	4	教職員が子供と積極的に関わり、良好な人間関係を築くとともに、児童相互の交友関係を向上させたことで目標値を達成できた。今後は、授業満足度を高め学校への好感を高める。	B		
健やかな体の育	3	健康の保持増進と体力の向上	○運動好きな児童を育てる	○運動の楽しさを実感させる体育科授業の実施。	・児童アンケート 【「運動が好き」と回答した児童】	90%以上	86.6%		96.2%	2	運動を好きな児童とそうでない児童の2極化傾向はより一層高まっていることを実感している。体育科授業を中心に、体を動かす気持ち良さを実感させる取組を進める。	B	○コロナ禍の影響は否めず、全国的に体力低下が課題になっている。運動の楽しさを児童に伝え、日常的に運動に親しむ児童の育成が必要である。	・体育科授業の充実 ・体育施設や教員等、運動への興味を促す環境の整備 【継続】
			○体力の向上を図る	○体育科授業での運動量の確保、なわとび運動の重点的取組、外遊び、運動遊びの奨励。	・児童アンケート 【新体力テスト全国平均項目達成率本校前年度比較】	110%以上	84.0%		76.4%	1	今年度の本校における児童の体力低下は顕著であり、コロナ禍の影響も含め、真剣に検討していく必要がある。ゲームとの関わり方との相関も検討を進める。	B		
信頼される学校づくり	4	安心・安全な学校づくりを推進し、地域・保護者から信頼され期待される学校づくり	○ICTを活用した積極的な学校情報の発信	○学校だよりやホームページで積極的に情報発信する。	・HP更新 【学年部及び学校更新回数】 ※ 各学期10回以上	80回以上	94回		117.5%	4	ブログ形式での各学年教育活動紹介ページを増設したことにより目標値を大きく上回る成果が上がった。より学校紹介の機会を増やせるよう努める。	B	○学校教育目標を知るだけでなく、共有しベクトルを揃えた取り組みを進めることが大切である。学校からの発信の在り方は、今後より一層工夫が求められる。	・学校を拠点とした地域学校協働活動の充実 ・HP・各種便りの充実(質) ・参観日等保護者・地域が学校の様子を理解するための行事の積極的実施
			○地域とともにある学校づくり	○地域・保護者と協働した取組を推進する。	・学校評価アンケート 【本校の学校教育目標を知っている」と回答した保護者】	90%以上	72.6%		80.7%	2	学校教育目標の周知機会を増やしたことにより、昨年度(63%)に比して肯定的回答は高まった。目標を共有するための方法については今後一層検討が必要である。	N		
		決められた時間内で仕事をすする働き方を浸透させ、時間外在籍時間等勤務削減に取り組む	○子供と向き合う時間を確保と時間外在籍時間等勤務削減	○定時退庁推進日を設定し、教職員の業務改善を促進する意識向上を図る。 ○業績評価書における、各教職員の取組みを共有する。	・定時退庁推進日における18:30施錠・消灯徹底 ・業績評価書に係る評価平均	90%以上	60.0%		100.3%	3	水曜日を業務改善を進める日として集中的に意識向上を図ることは進められているものの、現実的には突発的な対応が多く実現の難しさを実感している。 教職員が子供に向き合う時間を努めて確保しようとする意識は高いといえる。業務改善の具体的な対策と併せて、より一層意識を高めることに努める。	B	○学校は突発的な事案が生じることも多く、業務改善を進める苦労も絶えないと思うが、生徒指導の充実や保護者からの信頼獲得により業務改善が進むことを理解し、日常的な確実な取組を大切にしたい。	・教職員の子供に向き合う時間確保に資する業務改善の取組強化 【一部新規】

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
 4...目標を上回って達成 3...目標どおりに達成
 2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)
 A...とても適切である B...概ね適切である
 C...あまり適切でない D...全く適切でない
 (N...判定できない)